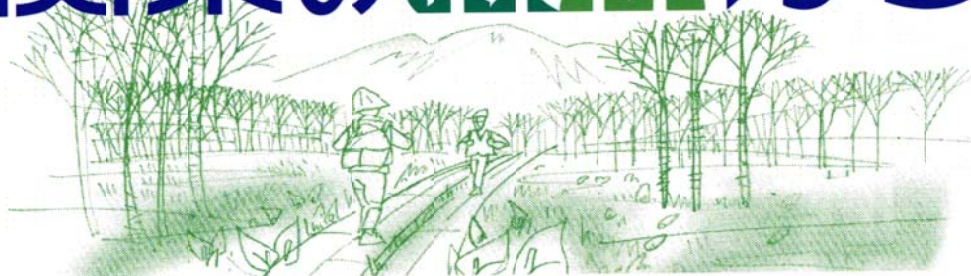


平成23年9月1日

第90号

関東の森林から



国民の森林・国有林

関東森林管理局

前橋市岩神町4-16-25

TEL.027-210-1158

<http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/>



秋の日光白根山（群馬県利根郡片品村・丸沼高原 日光白根山ロープウェー山頂駅付近から）
（提供者：尾瀬の郷 片品村）

森林・林業の再生に向けて 准フォレスト等一研修

計画部 指導普及課

私と国有林 「企業の森林での活動」

（株）日立エンジニアリング・アンド・サービス 大沼工場
エネルギーネットワーク本部 環境管理センタ
センタ長 茅根 正人 氏



2011・国際森林年



森林の施業方法と路網計画を現地で検討

平成21年12月、農林水産省は、「森林・林業再生プラン」を策定・公表し、昨年11月末には、「森林・林業の再生に向けた改革の姿」が公表されました。これを受け、人材育成のための研修フィールドとして国有林を活用した准フォレストスター研修や林業専用道技術者研修を開始しました。



准フォレストスター等研修について

准フォレストスター研修は、全国で7ブロック約450名が受講する予定となっています。

この研修は、市町村森林整備計画の策定等にかかる支援業務を行う准フォレストスターが現場で活動するために必要な基本的な考え方や知識、そして何よりも地域の森林・林業を再生させようとする心構えを身につけることを目的としています。

また、講師から知識や情報を一方的に伝達するといった研修ではなく、研修生が、研修生同士あるいは講師との議論を通じて、それぞれの地域における准フォレストスターの活動の姿を自分なりに考え、イメージをつかむことができるよう、ワークショップや現地での議論など対話型の研修を主体としています。

本研修の受講生は、11月以降、更に通信研修等を通じて、必要な知識等が補完される予定です。

この他、低コスト作業システムを確立する上で、丈夫で簡易な路網の要となる「林業専用道」についての

基礎知識の習得と路線選定、設計方法等の技術の向上を目的とした「林業専用道技術者研修」を全国で7ブロック約1000名が受講する予定となっています。

関東ブロックでの准フォレストスター研修

関東ブロックでは、利根沼田森林管理署をフォレストスター研修の拠点として、前期、後期の計2週間(各3回)、都県職員及び国有林職員あわせて約75名が受講する予定です。

平成23年7月25日(月)から前期第1回目の准フォレストスター研修を開催し、都県職員22名、国有林職員2名の計24名が参加しました。

一日目は、林野庁講師による准フォレストスターの役割や市町村整備計画の概要に続き、群馬県森林組合連合会の高橋指導課長により、森林施業の集約化について渋川県産材センターの紹介も含めて講義が行われました。二日目は、受講生が四班に分かれグループ演習を行い、森林経営計画を作成し、実行する森林施業プランナーに対しての支援、指導・助言する際に必要な視点を養うことを目的に四つの課題演習が行われました。

路網計画では、国有林のそれぞれの林班を民有林所有者に見立てた仮想集約化団地に対して、路網計画(森林施業プランナーが策定したと仮定したもの)に問題がないか等を班ごとで検討作業が行われました。



市町村整備計画でのゾーニング結果の公表

三日目は、現地実習で、森林施業の検討として、間伐未実施林分や広葉樹林化林分の施業方法の検討、昨日検討した仮想集約化団地での机上で検討した路網計画を実際の現地でも照らし合わせながら様々な角度から検討が行われました。

四日目は、班別に市町村整備計画でのゾーニングの進め方などを検討し、その結果を発表しました。

最終日は、目指すフォレストスター像について発表や意見交換が行われました。講師から、「准フォレストスター研修を受けた方は、それぞれの地域において森林・林業再生プランを実践する牽引者になりうる人材であり、実際の現場で活躍してくれることを願っています。そのためにも日々研さんして、知識・技術を身につけて

いってほしいと思います。」と話がありました。

関東ブロックでの林業専用道技術者研修

関東ブロックでは、利根沼田森林管理署を研修の拠点として都県、森林管理局、市町村、設計コンサルタント、土木建設事業体等の職員などを対象に4回実施し、あわせて約105名が受講する予定です。

平成23年8月8日(月)から第1回目の「林業専用道技術者研修」を開催し、森林組合職員2名、都県職員17名、国有林職員9名の計28名が参加しました。

一日目は、路網整備の現状と考え方や林業専用道の設計上の留意点等の基礎の講義や図面上での路線の検討を行いました。

二日目は、既設路線(作業道)において、切土、盛土、法面の高さや排水箇所等の検証、林業専用道として設計する場合の留意点等について検討を行いました。

三日目は、現地検討の結果の発表や林業専用道のルート選定及び設計上のチェックリスト等について説明が行われました。

今後、5年間、研修内容の改善や充実を図りながら准フォレストラー研修及び林業専用道研修に取り組んで参ります。

国有林モニター会議を開催 企画調整室

関東森林管理局では、国有林の管理経営に国民の皆様の声を反映させていくため、国有林モニター制度を設け、モニター70名から意見や提言を伺っています。

この一環として、去る7月27日、群馬県利根郡みなかみ町の国有林において、国有林モニター会議を開催しました。

当日は、各都県より、14名の国有林モニターの方々に参加いただき、現地視察及び意見交換等を行いました。

現地視察

現地視察では、豊かな自然環境の保全や復元を目指し活動中の「赤谷プロジェクト」の現場として、活動拠点の「いきもの村」及び平成21年度に行った治山ダム改修工事箇所について紹介・説明しました。



茂倉沢治山ダム改修工事について説明



間伐作業を視察

また、森林整備の効率化の現場として、高性能林業機械を用いた間伐作業を視察していただきました。

モニターの皆さんは、はじめて見る林業機械や間伐作業に、非常に関心を持たれた様子で、作業の厳しさや路網の必要性など、林業を取巻く状況について理解を深めていただけたのではないかと思います。

意見交換会

午後の会議では、関東森林管理局管内の概要や森林・林業再生プランを踏まえた当局の取組等について説明をした後、モニターの皆様との意見交換を行いました。

モニターの皆様からは、森林整備の効率化や、林業の担い手問題、赤谷プロジェクトの推進、ボランティアとの連携等、様々な質問・意見交換がなされ、有意義な一日となりました。

関連ホームページ

<http://www.rinyaff.jp/kanto/app/publicsa/kaku/n23monitor-kagjin.html>

新任幹部を 紹介します。

() は前職

8月16日付け

森林管理署長

▽利根沼田森林管理署長

中澤 文彦

(北海道森林管理局 根釧東部森林管理署長)

▽磐城森林管理署長

安室 正彦

(東北森林管理局 津軽森林管理署長)

9月1日付け

関東森林管理局課長等

▽赤谷森林環境保全ふれあいセンター所長

廣橋 潤

(林野庁国有林野部経営企画課付)

森林管理署長

▽東京神奈川森林管理署長

坂井 敏純

(林野庁国有林野部管理課監査官

兼国有林野部経営企画課)

小笠原諸島の国有林野(第2回)

小笠原諸島森林生態系保護地域

小笠原諸島森林生態系保全センター



世界遺産ロゴマーク

小笠原特集の第2回は、外来種対策についてご紹介します。

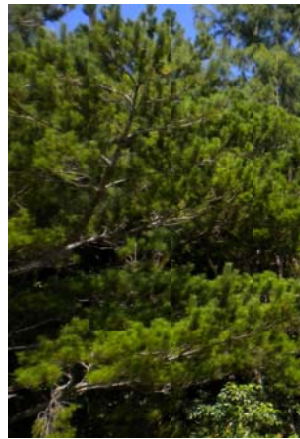
現在、生態系保全センターでは、小笠原諸島の固有の森林生態系や固有動植物の保護・管理を進めており、様々な取り組みを実施しています。

本来、森林生態系保護地域の保全・管理は、人の手を加えず、自然の推移に委ねることが原則です。

しかし、小笠原諸島森林生態系保護地域は、外来動植物種の侵入により固有動植物への悪影響が大きいことから、森林生態系保護地域保全管理計画や、世界遺産科学委員会において検討された、生態系保全アクションプラン等に基づき、計画的に「外来植物の駆除による固有森林生態系の修復事業」を実施しています。



アカギ(父島)



リュウキュウマツの林



モクマオウの林

小笠原諸島における代表的な外来植物としては、アカギ、モクマオウ、リュウキュウマツ等があります。これらの植物は、戦前、薪炭材等として利用するために、島に持ち込まれたものですが、戦後、特に返還後は燃料革命等により、利用されないまま放置されたことから、分布域を拡大してきました。

アカギは、母島では広範囲に分布しており、父島と弟島の一部にも生育しています。また、モクマオウは、小笠原諸島の全島に生育しています。

小笠原諸島における外来植物の駆除事業は、平成14年4月から実施しており、駆除方法は、薬剤注入、巻枯らし(樹皮を剥ぎ枯らす方法)、伐採等があります。

薬剤注入は、他の植物等への影響の少ない除草剤を使用するもので、アカギ、モクマオウは萌芽による樹勢回復が旺盛なことからこの方法は有効です。

また、伐採による駆除は、倒木による下層植生へのダメージやギャップによる陸産貝類等の生息環境への影響が大きくなることから、伐採駆除の実施に当たってはモニタリングをしながら慎重に実施しています。



村民ボランティアによる外来植物の抜取作業(南島)



リュウキュウマツに薬剤注入

外来植物の侵入による影響としては、アカガシラカラスバト等の餌木が減少・衰退することによる餌不足が危惧されることです。モクマオウ等の繁茂は、下層植生を衰退させ、何も生えていない状態を発生させることから、固有の動植物の減少につながります。

今年度の事業量は、父島、母島、兄島において、薬剤注入や稚幼樹の抜取り作業を約156箇所実施することとしており、ボランティアによる外来植物の駆除も予定しています。

今後も、各関係機関と連携しながら、小笠原諸島の固有な森林生態系を後世に残していくために、計画的な保全・管理を進めて参ります。

私と国有林

「企業の森林での活動」

（株）日立エンジニアリング・アンド・サービス 大沼工場
エネルギーネットワーク本部 環境管理センター センタ長 茅根 正人



3月11日に発生した東日本大震災で被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。被災地の一日も早い復旧、復興を祈願いたしております。

さて、私の勤める会社はエネルギーに深く関わる企業として、2007年から茨城県高萩市上君田堅石国有林の一部を借用し「悠々の森林」と自ら名前をつけた植林活動を始めています。既に6畝の森林に針葉樹、広葉樹を併せ約18,400本の植樹と4畝の国有林に生育している30年生の森林の整備を行ってきました。なぜ、私たちが国有林の森林育成や整備に関わるようになったのでしょうか？

それは、当時の経営者トップが植林活動に対する思いをかねてより心にいただき、今がその実行する時期と判断され、私たちに指示が下ったのです。何の知識も持たない私たちはどこから手を付けてよいのか皆目検討もつかず時が過ぎ、林野庁の「法人の森林制度」に辿りつきました。ここからがスタートです。場所はどこにするか、どのくらいの面積にす

るか。何年間続けるのかなど具体的な計画書を作成し、社内での審議を経て実行に移りました。

この活動は、社員のみに留まらず家族も一緒に行えるよう広く参加を呼びかけ、これまで延べ1,061名の方が参加協力してくれました。

特に、私たちが作業上注意したことは、急峻な場所では監視のためのスタッフの配置、小さなお子さんにはキッズエリアを設けロープで区画したこと、植える箇所をハッキリさせるため事前にマーキングしたこと、万一の怪我に備えての看護師の待機など参加者の安全確保に努めたことです。また、参加いただいた方には記念に杉板に名前を書いてもらい、憩いの場として建てた東屋の梁や特注の看板に貼り付けを行いました。何度も参加されている方はその度に前回の記憶を呼び起こし感慨深くなっている方もいらっしゃいます。

さらに、地元の森林組合の皆様、森林管理署員の皆様には毎回、森林とふれあうための学習、植栽や下刈り・間伐などの作業方法、巣箱の設置など細かな指導をいただき大変感謝しております。



巣箱設置の様子

ここで参加者からの声を一つご紹介します。昼食を用意したところ「割り箸、紙皿などの使い捨ては“もったいない”、マイ箸、マイ皿にしたほうがよい。」という意見をいただいて、直ぐに次回からは意見を取り入れ好評でした。

なお、関東森林管理局からは毎年、環境貢献度通知が届きます。これは、私たちが行っている植林活動の洪水防止、流域貯水、水質浄化、土砂流出防止、炭素固定便益について評価された数値を教えていただいています。小さな数値ですがこの通知は大変ありがたく励みになります。

こうして支えられてきた私たち企業の取り組みは小さな活動ですが、次の世代へ引継ぐための大切な環境活動と思いを馳せ、授かった命を未来へつなぐためにも様々な機能を備えた森林という財産を守り、森林からの恩恵も受けながら生きている私たちにとって、改めて国有林の大切

さを知ることができました。この活動は大変息の長い活動になります。私たちの時代に始めましたが、確実に次の世代にも始めた意義をシッカリ受け止め継続していつてもらえることが、企業として存続する証でもあります。

そして、生物多様性が叫ばれる今日、「豊かな水と緑の地球を未来のこどもたちに」をスローガンに私たちは植林活動を続け、50年後には大きく育った木々を利用したログハウスが社員の憩いの場として会社敷地に建っていることを夢見ています。



「悠々の森林」植林活動後の集合写真

森づくりの最前線

福島森林管理署 玉ノ井森林事務所 森林官 伊豫田 望

玉ノ井森林事務所は福島県の中通り地方のほぼ中央、大玉村に位置し、日本百名山で有名な安達太良山（標高1,700㍍）の東側、二本松市と大玉村にかかる約5千㍍の国有林を管理しています。

安達太良山は、磐梯朝日国立公園の南端に位置し、6～7月にかけてはハクサンシャクナゲやサラサドウダン、レンゲツツジなどが咲き誇り、田中澄江著「花の百名山」の一座にも選ばれています。

山頂へは、あだたら高原スキー場の Gondola 利用により標高1,300㍍付近まで上ることができ、登山道は比



大勢の登山者が参加しての安達太良山山開き



あだたら溪谷自然遊歩道での森林探訪会

較的緩やかで登りやすいことも登山者に人気の理由の一つとなっています。5月には安達太良山の山開きが開催されますが、今年は東日本大震災の影響があったものの、大変多くの登山者で賑わいました。

安達太良山周辺の国有林は、安達太良山自然休養林に指定され、スキー場やキャンプ場などの施設があり、一年を通して森林レクリエーションが楽しめます。また、秋には美しい紅葉を見せてくれる「あだたら溪谷自然遊歩道」や「遠藤ヶ滝遊歩道」は、森林環境教育の場としても利用されています。



元気いっぱいの小学生を案内して森林へ出発

当事務所管内には、最近注目されているコンテナ苗を植えた箇所があります。

採算性の厳しさが問われ続けて久しい林業ですが、コンテナ苗は、造林コストを下げようという取組みの中で考案された苗木で、従来のポットを改良したマルチキャピティコンテナという容器の中で育てられた苗木のことを指します。培地の容積が小さくて軽く、根巻きや根の変形がなく、植付作業が非常に簡単なことが大きな特徴です。

当署で開催したコンテナ苗の植栽実演会では、実際に植付作業を体験された方から、「作業が非常に簡単で楽しく植えることができた。」という感想をいただきました。

平成22年春に約4㍍植栽したカラマツのコンテナ苗は、約1年が経過したところですが、現在、順調に生育しており、今後どのように生長をしていくか継続して調査していくこととしています。

伐採した山に苗木を植え、再び伐採して利用できるようになるまでには長い期間を必要とします。林業という業界の中でもとりわけ森林整備の分野は、他に比べ新しい技術の成果が見えにくいという面が感じられます。こういった中で新しい技術を導入し、少しずつ改善し手を加えながら得られた成果を普及することは、森づくりを考える上で大切なことではないかと考えています。



コンテナ苗の植付実演会と梱包されたコンテナ苗

管内の百名山「日光白根山」



雪化粧した日光白根山

「白根山」は、古来より峰が雪で白く染まる様子から、その名称で呼ばれてきたと言われており、日本各地に白根山はありますが、他の白根山と区別するため、一般的に「日光白根山」と呼ばれています。

日光白根山（標高2,578㍎）は、群馬県利根郡片品村と栃木県日光市の県境にあり、関東以北の中にあつては一番高い山です。しかし、その位置が地理的に関東の中心部から奥地にあることで、最高峰と気付く人は少ないようです。日光市の戦場ヶ原からでさえ、手前の山々に遮られ山の全景を望むのは難しいほどです。



ロープウェイ山頂駅から日光白根山を望む

最後の噴火は明治22年で、当時の爆裂火口跡が山頂一帯に残っています。山頂からは360度の優れた景色を堪能でき、天候に恵まれれば富士山・日本アルプスの眺望も楽しむことができます。

登山ルートは、片品村の菅沼登山口から弥蛇ヶ池→奥白根山→五色沼→弥蛇ヶ池→菅沼へ戻るルートが一般的ですが、最近では、丸沼高原スキー場にある日光白根山ロープウェイで一気に標高2,000㍎付近まで行けることから、比較的楽に登れるため多くの登山者で賑わいをみせています。

日光白根山は日光国立公園内にあり、シラビソ、コメツガ、アスナロ、ダケカンバ等の樹林が広がっています。また、ハクサンシャクナゲ、ハクサンチドリ、マルバタケブキ、シラネアオイ等豊富な高山植物が登山者の目をなごませてくれます。

日光白根山は、良好な自然環境を維持しており、今後とも、当署管内の他の百名山「谷川岳」「武尊山」「皇海山」等とともに、森林生態系の維持・保全に努めていきたいと考えています。

（利根沼田森林管理署 広報広聴連絡官 高村 和三）

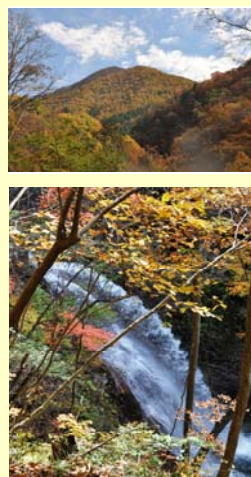


シラネアオイ

参加者募集

2011国際森林年関連事業

赤谷の森で自然散策をしましょ



実施日 平成23年10月23日（日）

実施場所 赤谷の森（小出俣エリア）
（関東森林管理局（前橋市）又は
利根沼田森林管理署（沼田市） 集合）

参加資格 小学4年生以上
（小中学生は保護者同伴）

募集人員 20名（定員になりしだい締切）

申込方法 イベント名「赤谷の森自然散策」及び参加者全員の①氏名②年齢③性別④郵便番号⑤住所⑥電話番号⑦希望する集合場所等を、当センター担当者にお知らせください。

申込締切 平成23年10月17日（月）

参加費 無料

お申し込み・お問い合わせ先

赤谷森林環境保全ふれあいセンター

担当：竹田・星田

〒378-0018 沼田市鍛冶町3923-1

電話番号 (0278) 60-1272

ファックス (0278) 24-55662

<http://www.rinetsu.go.jp/kanto/kanto/akaya.fc/news/index.html>



国民の森林・国有林

■ ■ 編集所
F T 行
A E 集
X L 所
(0 (0
2 2
7 7
))
2 2
1 1
0 0
・
1 1
1 1
5 5
9 8
総務課
関東森林管理局